

講談社 少年社員の頃

創立主任佐藤謙三氏

関口 東之輔

私は大正二年七月生、九十才になります。大正十五年四月十三日、本郷区下町の講談社へ入社しました。

日暮里駅から閉子坂まで父に連れられて歩いて行きました。昨年十一月朔生者で野間清治の生誕百二十周年を記念する顕彰会が行われ、尾崎秀

お願い申し上げます。来年は第四集の発行を予定していますが、取り上げてほしい人物がありましたら、広報部にまでお知らせ頂ければ幸いです。なお、広報部に加入されて美に広報活動に協力される方

がおりましたら、次の広報部員にまで、ご連絡くださるようお願い申し上げます。◎役員名簿
会長 菅原 大輔 林太
副会長 山口 和正
原澤 礼三



野氏の講演や資料の展示等が行われた顕彰会の会長にお目撃が知っている事があるのを知りました。大正十五年少年部へ入社したのは二十七日だったと想います。関根義一さんも同年の入社でした。小学校卒業は五人だけで特に小さかった私は皆さん可愛がって頂き余り苦しかった思い出はありません。小学六年だった寅雄さんとは一つ違いだったのでいろいろ思い出す事もあります。

社での仕事も初めは応援室のお茶出しとか代理部の窓口、代理部のレジスター係で、現代の編修部の時には写真部や婦人倶楽部の編修部と同室でした。第二会計の時にも種々の仕事と同室でしたからいろいろの勉強させて頂きました。営業部では一番早い赤石さんのそばに置いて頂きましたので講談社は私の人生を宿にしてくれたと有難く思っています。伊香保の別荘、千葉の別荘にも行きました。千葉の別荘では社長様奥様のお食事のお世話が私の精だったのです。

相生出身だったのでも特に可愛がって頂いた様に思います。昭和の初め博報堂が主催した第一回の広告祭に田川水池さんと一緒に参った事があります。のらくろ漫画の田川水池は大変な人友者でした。二組のチンドン家とタラリネット等の楽隊がのほり先頭に少年倶楽部の大きな車をビエロの赤い服を着た私達が十人位でお博報の様に歩いて参ったのです。その中心に田川水池が居て面白い言語や仕事で廻りの人を笑わせ乍ら参ったのです。田川さんは全部参ったわけではありませんが私達は野間で日比谷公園に集合し上野公園、白木屋等の銀座通りをしかもその間一滴の水も飲みません。田川水池と言えは長谷川町子先生でその頃ものらくろ漫画で有名でした。

その有名な少年倶楽部へのサービースだったと思うと本人の人物もあるが当時の講談社の力も大変なものだったと思います。

田川水池といえは本名は高見沢と言ったカワサワを田川水池（タカワミズアヲ）とした事をその時に本人から聞

きました。私達が但いだのが少年倶楽部の五ですがこの補だけで三十人居ましたから九歳以上の数は見えて居りましたが三百人位の大勢だったはず々々。三百人の長い行列が時々踊りながら日比谷から上野までの行進、その間一滴の水も飲まなかった自分、銀座通りをのらくろの先生と参った私を六十数年間にも話した事があります。

読書推進事業

著者む会 講演会

野田清治読書会・読書会連絡協議会 共催

浅田次郎先生を 迎えて

野田清治読書会理事

嶋田貴志枝

野田清治読書会では、平成十二年十一月四日に、浅田次郎氏を招いて「日本人のこころと感性」と題した文化講演会